

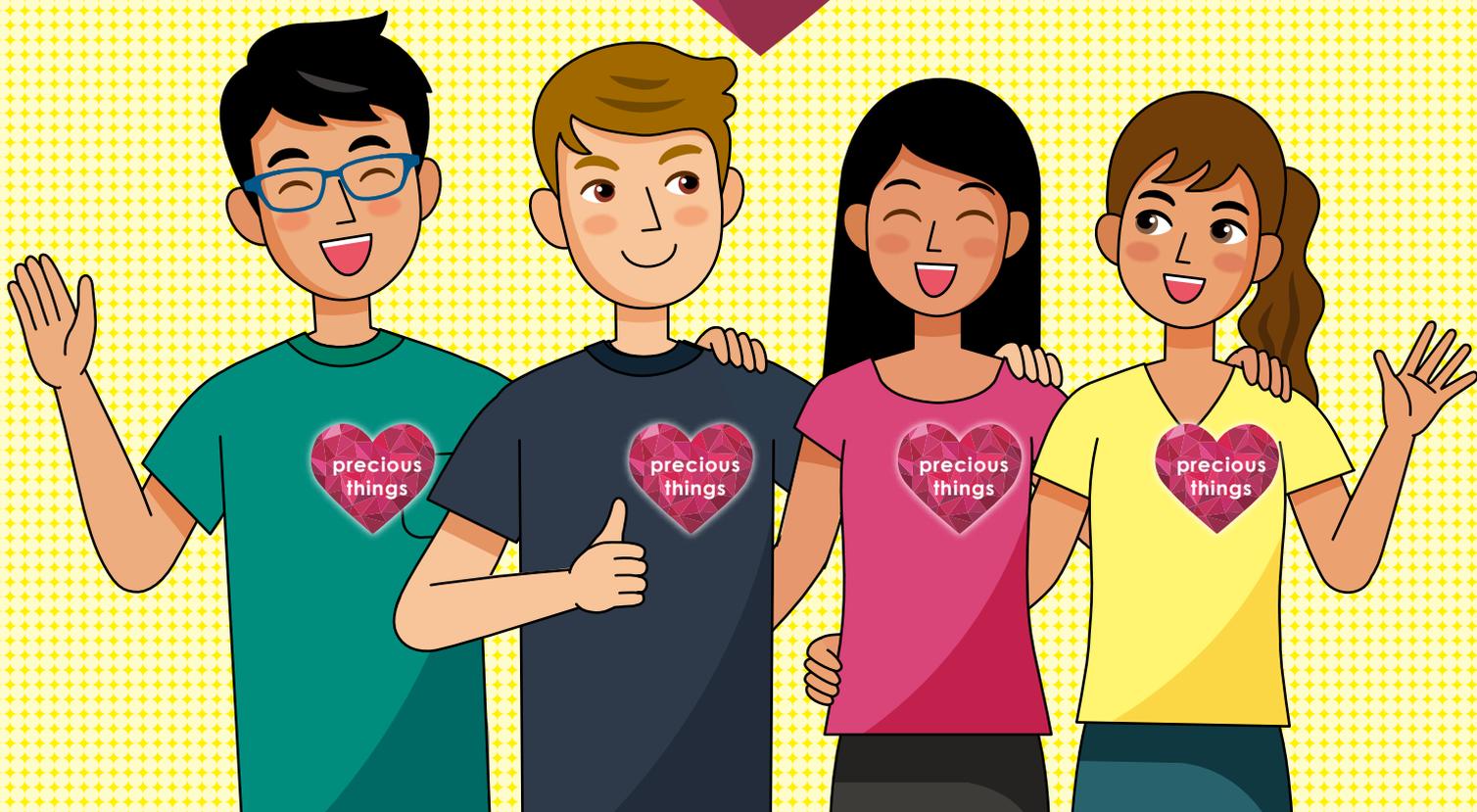
未来をつくるあなたへ

Thinking, Learning, Inspiration, Creation, Action, and ... Mind

活用の手引き



アイデアの
中にある
大切なもの



独立行政法人 工業所有権情報・研修館
National Center for Industrial Property
Information and Training

アイデアや創造は、何に価値があり、どうして尊重すべきなのか？

あるクリエイターが、次のような嘆きを口にしていました

“「コピー禁止！」「犯罪！」といった宣伝ばかりが目につく……”

作者の権利や利益だけでなく私たち消費者をも守るためのこうした宣伝は、もちろん社会にとって極めて大切なことです。その上で、クリエイターの皆さんには「自分たちの作品が、より多くの人々の喜びや幸せに結びついて欲しい」という本質的な願いがあることから、こうした憂いにつながったと思います。

創造は、誰にとっても「楽しいこと」であり、人間が本来持つ自己実現に向かう力の発揮でもあります。未来を担う子どもたちには、禁止や犯罪（悪）といった概念に先立って、創造の喜びや意義を知ってもらい、そこから知的財産の価値を学び、そうして自然と「尊重」の意識へと導いてあげたい。

そうした願いを込めて、本ブックレット（尊重）を作成しました。

この「活用の手引き」は、ブックレット本編の内容について補足をするものです。

右ページに示したとおり、子どもたちに向けて「あなた」（個）という概念から徐々に、他者や社会との関係性、そして社会の仕組みへと発展させていく構成としましたので、子どもの発達段階（学年）に応じて、到達レベルを工夫してください。

創造の価値と尊重を学ぶブックレット

本編の目次

I 導入

大切な人へのプレゼント 1～2頁

II 発想
や創造の
価値

夢と想いと努力 3～4頁

一人ひとりの個性とアイデア 5～6頁

夢と未来の社会 7～8頁

III 創造
を守り育
てること

アイデアを守り実現する社会 9～10頁

社会のルール 11～12頁

社会の発展と真似るときの約束 13～14頁

ブックレット（尊重）本編の全体構成

1～2 頁	学習の意識付けのための問いかけ モノの形や値段ではない何か……に「価値」がある
----------	---



3～4 頁	あなた自身の「想い」や「苦労」にある価値 ①あなた自身の「夢」と「目指す意志」という価値 ②あなた自身の創作の「楽しい記憶」という価値 ③あなた自身の創作の「苦労」という価値	あなたの アイデア 子どもの 内面
5～6 頁	一人ひとり違う「個性」や人格という価値 ④他人と違う発想や創造という価値 ⑤自分だけの個性という価値（真似されたときの気持ち）	あなたの アイデア 他者との 関係性
7～8 頁	あなたの夢が「未来を創る」という価値 ⑥人を幸せにしたり、社会を豊かにできるという価値	あなたの アイデア 社会との 関係性



9～10 頁	社会がみんなで守りながら育てること 社会を豊かにするために 他者のアイデアも、社会で守り育てることの意義	社会の中の アイデア 守り育てる 意義
11～12 頁	守り育てる社会の仕組み ニセモノが及ぼす悪影響 アイデアを守る社会の仕組みとそのスペシャリストたち	社会の中の アイデア 守り育てる 仕組み
13～14 頁	創造を受け継ぎ（学び）、発展させること 真似て学ぶことの意義 真似るときの約束	社会の中の アイデア 受け継ぎ 発展させる

大切な人へのプレゼント!!

喜んでもらうためには……それは

学習の意識付けのための問いかけ

モノの形や値段ではない何か……に「価値」がある

コンセプト

本ブックレットは、自他の創造を尊重する考え方を身に着けることを目的とした、小学校高学年～中学生向けの知財創造教育の教材です。

内容説明

本ブックレットでは、創造の客体（創作物）として、発明（技術）、意匠（デザイン）、商標（ブランド）のほか、著作物（絵画や音楽、文章）なども含めています。これらをまとめて「アイデア」と表現しています。

また、創造の主体（作者）には「あなた」である児童や生徒自身と、友達や世の中の人々（他者）の両方を含めて考えます。

本ブックレットは、創造の素晴らしさや大切さを伝えることで、児童や生徒に尊重の意識を育ていくことを目的としています。

ここで、創造の素晴らしさ（価値）は、**創作物それ自体の価値のみを意味しません**。例えば、発明の場合に、その技術が高度で新しいことのみを意味するものではなく、また、工作や美術作品の場合に、その作品が表彰を得ていること又は高価であることのみを意味するものではありません。

創造には、その「モノ」の見た目や値段ではない、**目には見えない「何か」**にも、素晴らしさや大切な価値があるということを、児童や生徒に伝えることが、このブックレットのテーマです。そこで、その見えない価値を小さな**ハートでイメージ**しました。

1～2頁は、テーマへの導入として、身近で簡単な物語を示したものです。

1頁で、ヒデが「お金はない……高いもの買えない」と悩んでいるように、そのプレゼント（創作物）

は決して高価なもの、豪華なものには出来なかったことを、児童や生徒に伝えます。それでも物語を見て、そのプレゼントに込められた素晴らしい「何か」として、**温かいハート**がヒデとユキの心の中に生まれたことは、児童や生徒にもなんとなくわかってもらえると思います。

2頁には、そうした**温かいハートが欠けたプレゼント**を描いてみました。プレゼントという「モノ」の見た目や値段はヒデのものと同じであったとしても、「めんどうだから……真似しちゃえ」という行為には、創造の大切な「何か」が欠けていて、タローとハナが首をかしげてしまう気持ちが、なんとなくわかってもらえると思います。

プレゼントを渡す側と受け取る側の双方に生まれるハートという「何か」に目を向けてもらいながら、児童や生徒が感じた「なんとなく」を足掛かりに、このブックレットで、アイデアのハートの意味を紐解いていきます。

大切な人への プレゼント!

「大好きなユキへプレゼントをあげたい!!」
喜んでもらえるプレゼントを一生懸命
悩みながら考えたヒデ。
その時のヒデの想いはどんなだったのでしょうか?
ユキの気持ちを考えて、悩んでつくることは大変だけど
その分だけユキが喜んでくれたら、最高!
そんなヒデの想いが伝わったユキも
プレゼントをもらって、とてもうれしくなれたのです。

Episode 1



プレゼントを考えてつくった時のヒデの想いや苦労
プレゼントをもらった時のユキの想い
どれもワクワク感がいっぱい! とても良い思い出になるでしょう!

そんな想いをここでは (ハート) で表してみたいと思います。
他にもいろいろな がある! みんなも探してみよう!

Episode 2



Message of Heart

友達や家族が、あなたのことを大切に想って頑張ってくれた時 そんな時に、友達や家族の心の中に、とっても大きなハートがあることに気付いて、幸せを感じたことがありませんか? いろいろな想いや努力を重ねていく時に、心の中に生まれてくる「ハート」があります。そんなハートを実感してみよう、想い出してみよう、感じてみよう。そして、友達とも共有してみよう。

利用方法

小・中学習指導要領 (令和 2・3 年度施行) では、例えば、音楽の授業では、「著作者の創造性を尊重する意識をもてるようにすること」が要請されています。

本ブックレットは、どの教科でも使えます。道徳の授業や総合的な学習の時間などでもご利用ください。

授業では、どちらのプレゼントが良いか児童・生徒に問いかけ、いくつか理由を挙げさせてみるというような使い方を想定しています。

また、各キャラクターがなぜそのような心情となったのかを児童・生徒に話し合わせるような使い方も想定しています。

日常では、見本やレシピ、先生の手本を見ながら、その真似をして作品をつくっていくことも多いため、児童や生徒の中には「真似をして、つくっちゃダメな

の?」と、この時点で違和感を覚える子どももいるかもしれません。これについては、本ブックレットの最終ページまでに説明していきます。

ですから、この時点では、良い・悪いという正解を求める必要はありません。この時点では、同じプレゼントなのに、なぜユキは心から喜んで、タローとハナは首をかしげてしまっているのか、その気持ち (理由) に対して、児童や生徒の意識を向けさせることが大切です。そして、その理由について、本ブックレットで順に学んでいきます。

夢と想いと努力

夢に向かって、進め！

あなた自身の「想い」や「苦労」にある価値

- ①あなた自身の「夢」と「目指す意志」という価値
- ②あなた自身の創作の「楽しい記憶」という価値
- ③あなた自身の創作の「苦労」という価値

コンセプト

創造（アイデア）には、そのプロセスにおいて創作者が、**夢や目標を持って行動したこと**の価値、**努力（苦労）したこと**の価値、そして、**個人の楽しい記憶（思い出）**という価値があることを伝え、そうした創作者の行動や想いに対する尊重の意識につなげていきます。

内容説明

創造したモノ自体の価値ではない「何か」について、3-4頁、5-6頁、7-8頁のそれぞれで、3つの観点からとりあげていきます。

- 3-4頁：創作者の内面にあるもの（創造プロセス）
- 5-6頁：創作者と創作物の結びつき（個性の発現）
- 7-8頁：創作物と社会の結びつき（貢献の意識）

3-4頁では、目に見えない「何か」として、創作者の内面にスポットをあて、創造のプロセスにおいて創作者にあった①**夢や目標**、②**努力（苦労）**、③**思い出**の3点を挙げました。ここで「思い出」とは、マイナス方向である「苦労」に対応して、創作者のプラス方向の感情（楽しい記憶）を意図した表現で、例えば友達の助けなどです。

3頁では、児童や生徒が過去にした創造（工作や絵画など）について、その結果（作品自体）よりもむしろ、そのプロセスを思い出させ、そこに①**夢**、②**努力**、③**思い出**があったことを考えさせます。そしてそれが、**児童や生徒自身にとって、とても大切な価値（=宝物）である**という気持ちを、ブックレットの「だから、それがどんなものでも、宝物のよう

に大切に思えたりする」のコメントを使って引き出します。

作品が賞をとったり、世の中で評価されたりすることは、本来の創造の素晴らしさからすれば、二次的な意味しか持ちません。児童や生徒の「生きる現場」から見れば、自らが精いっぱい想いを込めて産み出したものは、そのこと自体が切実な意味を持ち、価値を持っているはずで

幼児が手作りした母の日のプレゼント、父の日のプレゼントが、それを受け取った人にとっても、かけがえのない「宝物」であることも、伝えてみてはいかがでしょうか。

こうした気持ちを育むことで、創造というプロセスへの価値の意識、そして、創造への尊重の意識が生まれてくると考えます。

3頁下の枠内で、ヒデからユキへのプレゼントにも、そうした価値（アイデアのハート）があったことを振り返ることで、児童や生徒が意識した「大切な価値」が、**世の中のみんが持つ気持ち**として把握させます。

創造（アイデア）の尊重は、創造のプロセス（アイデアの完成）に、他者（創作者）の夢や苦労、思い出があることを知り、それに**共感することで生じます**。

（5頁以降では、個性の発揮や、社会貢献への意志について取り上げますが、これらに対する共感も、尊重の意識を形成するために重要な要素になります）

夢に向かって、進め!

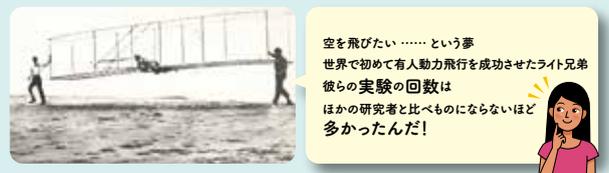
あなたがアイデアを考えたとき
 新しいモノを作るとき、自分のメッセージやメロディを考えたとき
 夢があった…… 目標に向かう温かい気持ちがあった……
 そして、山登りと同じように、たくさんの努力や、楽しい思い出もあった
 だから、それがどんなものでも、宝物のように大切に思えたりする



夢と想いと努力



山に登る。一步一步、踏みしめていく。斜面はきつく、頂上は遠い。
 でも、歩みを重ねていけば、必ず頂上に達することができる。
 一步の歩み、足を前に出すこと…… 疲れて足は重い。
 それでも、勇気と努力をもって一步を踏みしめていく。頂上をめざして。



昔の人たちも、あきらめずに努力して、あの発明にたどり着いた。
 夢をかなえるためには、たくさんの努力を重ねることが必要だ。
 努力を重ねている人のハート♥は、熱く、誰が見ても尊敬したくなる!

4頁上の登山の図は、目標を設定し、努力を重ね、やり遂げる人の例として取り上げています。

結果だけが価値ではなく、夢や目標を持ちそのために努力する**プロセスに価値**があることを伝えるための例としています。より抽象的な問いかけとして、「結果とプロセスどっちが大事か」というような問いかけをして、考えさせてみるのもよいかと思えます。

身近なプレゼントや作品に限らず、偉大な発明(創造)でも、先人たちが、夢を持ち、それに向かって熱く努力をすることで成し遂げられてきた例として、4頁下の有人動力飛行の例を挙げています。発明品だけを取り上げて子どもの興味を引いている様子をよく見かけますが、むしろ、こうした発明でも同じように、創作者(発明者)という個人の夢、努力、思い出について知ること、そこに価値を認識し、尊重できる人に育てることが大切です。

利用方法

ここでは、児童・生徒にこれまでに、目標を持ちそれに向かって努力した実体験を発表させるような授業も想定できます。

また、8頁のエジソンのような発明家やノーベル賞受賞者について取り上げる授業でも、その結果(発明品の素晴らしさ)だけを理解させるのではなく、そのプロセスや創作者の内面(努力など)について知得し、それに共感することで、尊重の意識を醸成する機会とすることができます。

一人ひとりの個性とアイデア

あなたらしさ、わたしらしさ

一人ひとり違う「個性」や人格という価値

- ④他人と違う発想や創造という価値
- ⑤自分だけの個性という価値（真似されたときの気持ち）

あなたらしさ、わたしらしさ

友だちのアイデアに「いいね」と言おう

みんなが自分の個性を大切にすると同じくらいほかの人の個性も大切にしたい
友達にアイデアや夢や未来の目標も自分と違っても「いいね」と言えるかな

こんなとき……どんな気持ち？

大切にしている自分の「個性」……たとえ右側に入り口のファッションまったく同じ服装の人がいたらどんな気持ちになるかな？
あなたのアイデアや夢や未来の目標も勝手に真似されたら……なんだか気分悪いな……でしょ？

一人ひとりの個性とアイデア

一人ひとり、みんな違う、同じにならない
計算や暗記のテストは同じ答えじゃダメだけど……

好きなモノ、嬉しいモノ、得意なスポーツ、ファッション
アイデア、夢、未来の目標
みんな違っていいんだ！

あなたのアイデアも「オンリーワン」
わたしのアイデアも「オンリーワン」
ぜんぶ OK!

一人ひとりのアイデアが大切な個性！

みんな、それぞれ思いつづものは違っている……好きとか嫌いとかもあるけれど……
毎日の生活で、どんな経験をしてきたか、何を学んできたかによって、一人ひとり考えること、思いつくアイデアも夢も違っている。一人ひとり、みんな違っていいことを「個性」と言うんだ。
あなたの体と心、家族や生活が、同じものがない、かけがえのないものであるように、あなたの個性も、とても大切なもの。あなたが考えたアイデアが、他の人と違っていても、そこには個性という大切な「カード」があるんだ。
同じように、あなたのアイデアにも個性という大切な「カード」がある。友だちのアイデアが、あなたと違っているのは、あたりまえ！ 喜ばないで「いいね！ ぜんぶ OK!」と褒めてあげよう。

コンセプト

創造が、一人ひとり異なる個性の発現であることを理解することで、人と違う個性を発揮する創造の重要性とともに（かけがえのない個性という観点から）自他の創造を尊重する意識を持たせます。

内容説明

ここでは、4人の対話を通じて、他者との関係性（自他の相違）に観点を広げつつ、創作者と創造物の結びつきを考えながら、創造（アイデア）が、他者とは異なる創作者という個性の発現（あなたらしさ、わたしらしさ）であることを把握していきます。

答えの決まったドリルと異なり、個性に応じて他人と違ったアイデ

アを出すことの大切さ、自分と違っていてもお互いに「いいね！」と評価できる心の大切さを、まずは先生から理解してください。創造がかけがえのない個性と結びついていることを認識し、それを尊重する意識を子どもたちに涵養していきます。

利用方法

個性の尊重を取り扱う一般的な道徳の時間でも活用可能です（個性の尊重の大切さを示す一例となります）。

課題授業やアイデア創作の時間に、児童・生徒に自分なりのアイデアを考えてもらい、みんなで「肯定的に」評価しあうような授業進行も考えられます。

5頁下の会話については、どのように思うか児童・生徒に問いかける使い方も想定できます。服装の例では、気にならないという児童や生徒もあると思いますので、服装以外の例も考えさせて、かけがえのない個性（その人の特性、固有の経験や環境）を無視される（踏みにじられる）ことの辛い気持ちを感じ取り、個性と創造を尊重する意識につなげていきます。

当然ですが、個性の尊重にも限界があります。例えば「みんな一緒になるから制服は良くない」というような議論になった時には「個性の尊重にも限界があり、他人の権利や利益、適正に定められたルールを守ることも同じく重要である」ことを補足してください。

夢と未来の社会

あなたの夢は？

あなたの夢が「未来を創る」という価値

⑥人を幸せにしたり、社会を豊かにできるという価値

コンセプト

創作者には、人を幸せにし、社会を豊かにするという**貢献の意志**があること、また、創作物が、**人に喜びを与え社会の発展に寄与**することを理解させ、これにより創造が、**社会との結びつきの中で価値をもつ**ことを認識することで、**尊重の意識を育んで**いきます。

内容説明

発明品を通じた発展の歴史を示すことで、これらの発明で人が幸せになり、社会が豊かになったことを説明し、さらに発明者には、貢献しよう、貢献したいという意志があったことを説明する授業進行を想定しています。

ここまでで説明した創作者の内

面や個性の観点に加え、社会とのつながりの観点からは、創作者には**貢献の意志**が、創作物という成果には、多くの**人々の幸せや社会の発展に寄与**するという価値があることを理解し、**創造を尊重**する意識につなげていきます。

「わたしの夢が未来をつくる」という認識が、児童や生徒に**創造**を通じた「生きがい」を感じさせ、**創造力**を高めめます。

利用方法

発明（技術）以外の**芸術や音楽、デザインやサービス**なども、**幸せや豊かさ**に欠くことができないものであり、そうした例を授業で取り上げても良いと思います。

歴史的な発明を例に挙げました

が、授業では「現在の豊かな社会を支えているものは何でしょう。考えてみましょう」と問いかけをして、**児童や生徒が身近に認識**している「**幸せ**」や「**豊かさ**」を確認させ、それに基づいて、その**創作物の貢献**や、その**創作をした人を尊敬**する意識について考察を進めても良いと思います。

また、児童や生徒の身近な「**貢献の意識**」を認識させるために、**おばあちゃんのための車椅子の例**を挙げました。児童や生徒自身に「**誰かのために何かしたい**」とか「**自然環境のために何かしたい**」といった**貢献の意識**を持たせ、**創造**に向かう**意欲**を融合させる（**アイデア**を創出させる）ことで、**創造する力**を高めるとともに、**創造を尊重**する意識も高めることにつながります。

あなたの夢は？

現代のみなさんの社会

あなたの夢が未来をつくる

未来の社会に貢献してこそする(社会貢献)は、みなさんの「生きがい」を生んでくれます。生きがいを感じられることは、みなさん自身の幸せにもつながります。

夢の描き方

いろいろな問題に気付いていると、それに対して私だったら「できる」とか「役に立てる」ということがきっとあるはず。それはちょっとした思いつきでもアイデアでも何でもいいんだ。

あなたの夢は、どのようなものなのでしょうか？

ごんモノがほしい！
……そんな気持ちも大切。それからみんなが住んでいる社会や、周りの人たちのことを考えながら大きな**ハート**の夢を描くのも素敵なこと。

あんな生活がしたい！
……そんな気持ちも大切。それからみんなが住んでいる社会や、周りの人たちのことを考えながら大きな**ハート**の夢を描くのも素敵なこと。

お金持ちになりたい！
……そんな気持ちも大切。それからみんなが住んでいる社会や、周りの人たちのことを考えながら大きな**ハート**の夢を描くのも素敵なこと。

身の回りで困っていることはありますか？

友人や家族が困っていることはありますか？

世界や社会で困っていることはありますか？

夢と未来の社会

だれかの夢が

エジソンは電球をいじり、でもまだ明るく長い時間 lasted……普通の子供大人になったエジソンは、ある夢を掲げた。——長持ちする(耐久)のある「電球があれば——**みんなの目に輝いて**、**暗い夜を照らす**、その夢を実現した。エジソンには、一つの夢がなかった期間があった。

でもそれだけではないんだ。実際に長持ちする電球ができたおかげで、街に電球が使われるようになって生活が楽になった。一人の人の夢がみんなを幸せにしてくれた。それを夢かいてくれたその瞬間は「みんなの幸せ」という大きな**ハート**を持っていったんだ！

アイデアや作品を生み出す人たちは、アイデアや作品に込めた「思い」や「苦労」に共感してもらいながら、それを受け取った人、そして多くの人たちに楽しんでもらったり、幸せになってもらうことを願っているのです。

あなたの夢が

みんなを幸せにする!

あなたのキャンパスだから 自由な夢を描け!

ここまでに見つけた **ハート**

あなた自身の **夢** が大切な **ハート**

それに向かうあなたの **努力** や **思い** が大切な **ハート** あなたの **個性** が大切な **ハート**

だれかの **役に立とう** と夢うつつも大切な **ハート**

そこから生まれた **アイデア** は未来をよりよくなっていく **大事な芽** になるんだ

アイデアを守り、実現する社会

社会で育て、分かち合おう

社会がみんなで守りながら育てること

社会を豊かにするために
他者のアイデアも、社会で守り育てることの意義

コンセプト

創造に基づく社会の発展が、個人による創造の成果を尊重し、守り、それを社会の価値として実現し、分かち合うことで成り立っていることを学ぶとともに、自らも社会の一員として、他者の創造の成果を尊重し、守り育てるという意識を育む。

内容説明

前頁まで（3－8頁）で、創造に秘められた価値（アイデアのハート）について把握してきました。前頁（8頁）の最後に「ここまでに見つけたハート」として、おさらいをしてあります。

- ・夢や目標というハート
- ・努力や想いというハート
- ・個性というハート
- ・役に立とうという気持ちのハート

このように前頁までは、創造の価値の源泉である「創作者と創作物」について考え、さらに「創作者と創作物」の側から社会とのつながりを考えてきました。

9頁からは「社会」の側から、その価値について学ぶ、つまり、創造の価値を利用すべき側の「社会」は、創作者や創作物をどのように扱うべきか、という視点で学んでいきます。

前の7－8頁で創造が、人々の幸せや社会の発展をもたらしてきた歴史を学びました。

社会の側からの視点で考えれば、**個人が生み出した価値を社会が受け取り、社会全体の価値として実現してきたこと**になります。このことを9－10頁では、個人のアイデアという「小さな芽」と、その芽を社会の中の「大きな樹に育てること」に例えています。

小さな芽を大きな樹に育てるためには、11頁以降で説明する社会の仕組みが重要な機能を果たしますが、それに先立って9－10頁では、アイデアの小さな芽を大切にするという社会全体の意識、つまり、アイデアのハートを大切にす各人の意識の大切さについて振り返っています。

創造（アイデア）が尊重される社会をみんなで作り上げる（みんながそのような意識を持つ）ことが、アイデアの芽が育ち、多くの果実を実らせる（商品やサービスを実現すること）につながり、豊かな社会や未来を作り出すために必要であることを、イメージしていきます。

ここで尊重には、**アイデア自体に対する尊重**の意識とともに、**創作した個人に対する尊敬**の意識もあることに留意しましょう（「個人」と書きましたが、実際には、グループで創作をしたり、企業全体として研究開発を進めて商品を完成させることも多くあります）。

10頁では、ユキ個人のアイデア（おばあちゃんのための車椅子）を知ったヒデが「世界中に広まるといいね」と言っています。タローも「勝手に真似したりしない」と言っています。

多くのハートがつまった真正な「小さな芽」を育てることは、創作者や創作物を大切にすることであり、その成果を抛りどころとして未来を築いていく私たちの社会にとって一番重要なこと、つまりは、社会で基盤とすべき規範であるということ、児童や生徒に感じ取ってもらいましょう。



社会で育て、分かち合おう

アイデアという小さな芽



昔の人たちも、アイデアにあるハートを大切にした。
 ある人が考えてくれたアイデア —
 そのアイデアを尊重するだけでなく、それを考えてくれた人のことを尊敬した。
 アイデアに込められたハートに価値を感じながら
 社会の中で、みんなで大切にしている気持ちがあった。

例えば、科学の発見や技術の発明
 その技術の素晴らしさだけでなく、そのハートを大切にしながら
 アイデアという小さな芽を、みんなで大きく育てていった。
 だから、そのアイデアは実際のモノや商品として実現し
 世界の多くの人に広まっていくことができたし
 次のアイデアを考えようという気持ちにもつながっていった。



アイデアを守り実現する社会

アイデアが未来をつくるために

一人ひとりが考えたアイデアは、まだまだ小さな芽。
 その小さな芽で、僕たちの未来をつくるには必要なことがある。
 アイデアを大切に守ってあげること。
 「アイデアのハート」を知ったみんなはもう、できるはず
 そして、そんな気持ちが次のアイデアにつながっていくんだ。

アイデアの小さな芽



僕たちと一緒に
 育てるから世界中に
 広まると良いね!

おばあちゃんのための
 車椅子
 つくってみよう!

ユキのハートが
 たくさん詰まった
 アイデア!
 勝手に真似したり
 しないよ



ほかの人のアイデアのハートも
 尊重し、守ってあげよう

そうすればそのアイデアは
 成長して広がり

みんなの未来を
 つくっていく

利用方法

児童や生徒の一人ひとりが考えた多くのアイデアを例に、それがまだ、弱弱しい小さな芽であること、それを現実の商品やサービスとして実現し世界に広めていくためには、お互いに邪魔し合ったり、無視して踏みつけてしまうような社会ではなく、お互いの小さな芽を大切に、守り合いながら育てる必要があることを考えて、互いのアイデアを尊重し合う社会をイメージしてみましよう。

また、「どうしたら、クラスみんなのアイデアを各々尊重できるか」や「互いに尊重すれば、クラスみんなが豊かになれること」について、話合わせるのもよいと思います。

例えば、アイデアを尊重するための出発点として、それを考えた人の想いに共感することがあります。未来をつくり出す小さなアイデアを児童・生徒が相互に出し合い、その想いについて話し合ってみるという授業も考えられます。また、通常授業でも、児童・生徒が、他の児童・生徒の作文・作品（書道、絵画、音楽）を十分に鑑賞した上で、よい点をお互いにコ

メントしてみるという形で取り入れることもできます。

別の授業手法として、例えば、7 - 8 頁の発明や技術を、どのように社会が育ててきたのかを児童・生徒に考えさせるのもよいと思います。

具体的に「何から」守るのか、「どのように」守るのかについては、少しレベルが上がりますが 11 - 12 頁で説明します。

社会のルール

アイデアをニセモノから守れ！

守り育てる社会の仕組み

ニセモノが及ぼす悪影響
アイデアを守る社会の仕組みとそのスペシャリストたち

コンセプト

社会の実態として、他人のアイデアを「盗む」こと、具体的には**模倣品、コピー品、海賊版の実態**があることを知るとともに、こうした問題行為をする者の気持ちについて考えてみます。また、こうした問題を防ぐための**社会の仕組み（法制度）**を取り上げます。

内容説明

創造を尊重する意識について学んできましたが、これに反して社会には、ニセモノ、模倣品、コピー品、海賊版、不正アップロードなど、**他人の創造を十分に尊重せず、その価値を毀損するような行為**があります。

こうした不正な行為によって、創作者や創作物の信頼や利益が失われたり、質の悪いコピー品で消費者が被害を受けたりしてします。不正な商品の製造や販売には反社会的勢力が関与していることも多く、その資金源となっています（**ニセモノ商品を「購入すること」**に、そのような問題があることを説明してもよいと思います）。

さらに、**創作者の創作意欲を減退させてしまう**ことで、創造が生まれなくなってしまう、結果として社会の発展が阻害されることにもつながります。模倣品の実態や、動画などの様々な資料については、特許庁の模倣品対策のサイトをご覧ください。

<https://www.jpo.go.jp/news/kokusai/mohohin/index.html>

一方、本ブックレットの1-2頁の物語でタローに「心の中の黒い影」が登場したように、児童や

生徒でも他人の作品を「真似しちゃえ」と思うことがあるはずですが、そこで、“不正に”真似をしたりアイデアを盗んだりしてしまう心情について、授業で取り上げてみましょう。アイデアのハートを学んだ後の児童や生徒なら、「バレてしまう」からだめという消極的な理解を越えて、ハートをつぶすことになる、大変なことになるという、**正しい倫理や道徳観に触れることができ、心の学習につなげられる**と思います。

利用方法

授業では、ニセモノの「悪」について、より身近な例を挙げることにより、児童や生徒に理解させます（上記のサイトのほか、ネット上にも様々なニセモノの例が掲載されています）。

また、11頁中央のコメントを参考に、真似をする側の気持ちになったり、真似をされる創作者の立場になったりして、どのように感じるかを児童・生徒に考えさせる利用方法が考えられます。

アイデアをニセモノから守れ!



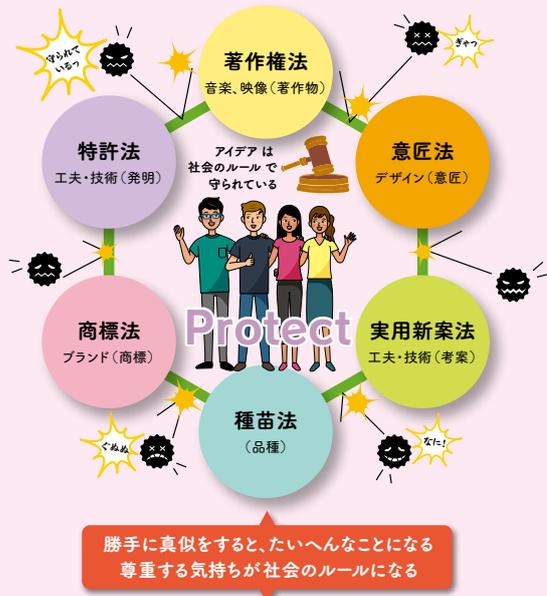
想いを込めて努力して、自分らしさを生かして、新しいものをつくること……
その大切さ(価値)を想像できない人は、簡単に真似してしまったり、アイデアを盗んだりしてしま
なぜ、真似したり、盗んだりしてしまうのだろうか?

- アイデアの苦労や努力を知らないから、大切さを感じないのだろうか?
- 自分だけよくて楽しくなればそれでいいと思うのだろうか?
- ほかの人が見ていなければ真似してもいいと思えるのだろうか?
- 友達や仲間が嫌な気持ちになることに気がつかないのだろうか?
- 目標を目指して自分で努力した達成感や満足感を、知らないからだろうか?
- 真似された人が悲しい気持ちになることが想像できないのだろうか?
- 自分らしいアイデアを他の人にアピールすることが、恥ずかしいからだろうか?

でも、そんなことでは……

夢を目指す意志のハート♥をつぶしてしま
相手を想って作るワクワクのハート♥をつぶしてしま
苦勞して努力したハート♥をつぶしてしま
一人ひとりの個性のハート♥をつぶしてしま
社会の幸せというハート♥をつぶしてしま
みんなでアイデアのハートを大切にしないと**未来の芽**は育たない

社会のルール



より豊かな社会の実現を目指して法律や制度、そして様々な職業の人が、みんなのアイデアを守っている。
法律や制度があるから、より良いアイデアが安心して生み出され未来の夢を実現していくんだ。



- 審査官(特許庁)
- 弁理士(特許事務所)
- 裁判官(裁判所)
- 弁理士(法律事務所)
- 警察官(警察)
- 税関

内容説明

12頁上のように、社会では、知的財産に関するいくつかの法制度が、アイデアを保護しています。

知的財産法制度について、より詳しく知りたい場合には、次の文献を参照してください。

- ①種苗法以外について
「知的創造活動と知的財産」(本ブックレットの姉妹版)
https://www.inpit.go.jp/jinzai/educate/manual/souzou_chizai.pdf (5-20頁)
- ②種苗法について
「品種登録制度と育成者権」
<http://www.hinshu2.maff.go.jp/pvr/pamphlet/seido.pdf> (1-16頁)

なお、本ブックレットでこれまで説明してきたとおり、アイデアを尊重する気持ちがあって、**その気持ちが法律という形で結実しています。アイデア(知的財産)の保護は法律で禁止されているからではなく、個性・アイデアを尊重する気持ちから生まれて**いることに十分に留意して説明をしてください。

12頁下の職業の詳細について、より詳しく知りたい場合には、下記の文献を参照してください。また、**キャリア教育**の一環として、各職業についての調べ学習や、弁理士会からの弁理士派遣授業なども検討してみてください。

- ①審査官(特許庁)について
(特許審査官パンフレット)
https://www.jpo.go.jp/news/saiyo/tokkyo/document/index/pamphlet_tokkyo.pdf (6-8頁)
- ②弁理士(特許事務所)について
日本弁理士会 Web サイト「弁理士の役割」
<https://www.jpaa.or.jp/patent-attorney/role>
- ③警察(官)による知的財産保護について
「偽ブランド品・海賊版の根絶に向けて!!!」
<https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/keizai/niseburanndohinkaizokubannnokonnz-etu.pdf> (3-6頁)
- ④税関による知的財産保護について
税関 Web サイト「侵害物品の取締りの概要」
https://www.customs.go.jp/mizugiwa/chiteki/pages/a_003.htm

社会

の発展と真似るときの約束

真似ることと学ぶこと

創造を受け継ぎ（学び）、発展させること

真似て学ぶことの意義
真似るときの約束

コンセプト

「創造を尊重すること」と「真似ること」の両立について学びます。

内容説明

「学ぶことは、真似ること」とされ、また社会は、先人の創造という礎の上に新たな創造を積み重ねることで発展していきます。つまり、創造を**真似ること、受け継ぐこと、そして発展させることは、個人にとっても社会にとっても大切なこと**です。ただ、その際に、先人の創造に対して尊重の意識を持ち、社会規範にのっとって、真似をしたり受け継いだりすることが必要なのです。

先の3－8頁で創造の価値について学ぶなかで挙げた、苦勞、個性、貢献の3つの観点で考えてみます。

創作者の「個性」（尊厳）を考えると、例えば文章の真似（引用）をするのであれば、作者や出典を明記したり、文章の同一性に配慮したりすることが必要です。創作者の「苦勞」を考えると、例えば新技術（発明）の真似（利用）をするのであれば、創作者との間でライセンスをして対価（特許料）を払う手続きをとることがあります。また、「貢献」という観点では、創作者が成果を社会全体で利用して欲しいと考える場合と、「のれん」「秘伝」のように特定の人たちに限定して使っていきたいと考える場合があり、そうした意向を尊重して、利用する（真似をする、しない）ことが必要です。尊重の意識に欠け、創作者の気持ちを無視するような「ただ乗り」行為は、不正であり、許されるものではありません。

一子相伝ということがあるように、知識や知恵・経験を受け継げること自体が、「有り難いこと」と

いう認識でも考えてみましょう。学校の現場で考えれば、児童や生徒が学ぶ知識や知恵・経験も、先人の英知や努力の賜物であり、そうした先人に感謝しながら（かつ、それを教え伝えてくれる先生方に感謝しながら）学んでいく（真似る、身につけていく）ことが、大切であるということになります。友達の作品を参考にするときも、その友達に敬意を払い、友達にちゃんと伝えて、友達の気持ちを確認してから、真似るなら真似て、発展させるなら発展させて、その上で友達に感謝もすべきです。

真似ることと学ぶこと

新しい技術やデザインや作品は
それまでにあったものからも
発展します



私たちは、昔の人たちが新しく発見したり考えついた知識や経験、技術を
大切な財産として受け継いでいます。
こうして受け継いだステップの上に、さらに一段高いステップを築きあげることで、
よりよい未来をつくることができます。

学ぶときには 真似ることも大切



昔の人たちや
今の人たちが持っている
知識や経験、技術を
身につけることが
私たちに必要になります。
それが「学ぶ」ことです。

画家のゴッホが描いた絵には、たくさんの模写が残っている。
たとえば、下の絵のように、ミレーという人の絵をそっくり真似
ているんだ。
真似てみることで、ミレーがどのようにして絵を描いたかを学んだ。
ゴッホはその後、ゴッホ独特の技を見つけていったんだ。
ゴッホは、ちゃんとそのことを明らかにしている。
ミレーの真似をしたことを、しっかりと多くの人に語っている。
ミレーの作品を尊重していたんだ。



ミレー(1814年～1875年)が描いた絵

『落穂拾い』オノノ・オノノの複製



ゴッホ(1853年～1890年)が描いた絵



ゴッホ(1853年～1890年)が描いた絵



ファン・ゴッホ(1853年～1890年)が描いた絵

『落穂拾い』オノノ・オノノの複製

社会の発展と真似るときの約束



勝手に真似を
してはダメな
ことがある

ほかの人のアイデアや作品を使いたいときの約束

みなさんが学校などで学ぶことは、それを自分でやることで能力を高められるので
真似をしても大丈夫だから安心してね。もしそれが

- 友達など他の人が考えた「アイデア」だったら、ちゃんと話してから使うようにしましょう

それに、社会の中には

- 商品の技術やデザイン、ブランドなど、会社が独自のものとして守っているもの
- 会社の名前やキャラクタのように、他の人を使ってほしくないもの
- 音楽や動画など

こうしたものは、勝手に真似したり、コピーしたりしてはダメだということを知って
おきましょう。

利用方法

授業では、例として、引用や学校での作品利用などを挙げてみるとよいかと思います。

14 頁上の例については以下のような問かけも可能です。

2 頁のタローくんと比較して、①タロー君にどのような心の変化があったでしょうか？ また、②ハナちゃんの受け取り方にはどのような違いがあるでしょうか？

14 頁下の「ほかの人のアイデアや作品を使いたいときの約束」について、先生方も気を付けておいてほしいことがあります。

授業用の配布資料等として複製を行う場合でも、
①教員間での授業用資料共有のための複製（授業目的外での複製）、②担当クラス以外の学年生徒全員分の複製（担当授業外のための複製）、③部活動等の課外授業のための複製（正規授業以外での複製）は許されないことに注意してください。

なお、知的財産の利用の際の約束について、より詳しく知りたい場合には、次の文献を参照してください。

「学校教育と著作権」

<https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/cs01.pdf> (9-43 頁)

未来をつくるあなたへ

心の中にある大切なもの —— 色々な話を紹介しました
あなたの個性を生かし、たくさんのアイデアを出して、未来への夢と目標に挑戦してってください
そのときに、あなたの心の中にある素敵なハートを、たくさん感じて欲しい
他の人の個性や想い、努力にも、多くの敬意を持って欲しい
そう願っています

東海大学・知的財産の「尊重」に関する学習用資料検討プロジェクト

山田 清志 (学長・教養学部人間環境学科教授)
角田 政芳 (総合社会科学研究所客員教授)※ プロジェクトリーダー
内田 晴久 (副学長・大学運営本部長・教養学部人間環境学科教授)
坂部 貢 (副学長・付属病院本部副本部長・医学部長・教授)
利根川 昭 (教育支援センター所長・理学部物理学科教授)
飯田 雅美 (初等中等教育部次長)
石井 良 (付属静岡翔洋小学校教頭)
緒方 道郎 (教育支援センター教育支援課課長)
野口 大輔 (付属高輪台高等学校教諭学年主任)
内田 剛 (法学部法律学科講師)
加藤 英晃 (工学部動力機械工学科講師)
園田 由紀子 (教育開発研究センター講師)
清水 菜緒子 (研究推進部産官学連携センター産官学連携推進課係長)
(オブザーバー)
榎本 吉孝 独立行政法人工業所有権情報・研修館 (人材開発統括監)

デザイン制作/株式会社アカマ印刷

企画・発行



独立行政法人 工業所有権情報・研修館
National Center for Industrial Property
Information and Training

〒105-6008 東京都港区虎ノ門4-3-1
城山トラストタワー8階
TEL:03-5512-1202(知財人材部)

リサイクル適性 (A)

発行日 2020年4月